

教 育 研 究 業 績 書

2025年 5月 1日

氏名 鳥 宮 尚 道

研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
1. 人間情報学		感性デザイン学	
2. 複合領域デザイン学		情報デザイン、工業デザイン	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項			
事 項		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 1) 札幌大谷大学 1. 情報デザイン研究ⅠA（演習）		平成24年度～ 2020年度	＜単独＞オブザベーションからの問題点把握と発想、デザインへの展開を行う
2. メディアデザイン基礎ⅡB（演習）		平成25年度～ 平成27年度	＜単独＞アナログ作業作品を元にデジタル加工を行いフォーマットに適したデザイン制作を行う
3. 情報デザイン研究ⅡA（演習）		平成25年度～ 2020年度	＜単独＞インタラクションの要素に軸を置いたデザイン提案を行う
4. 情報デザイン研究Ⅳ（演習）		平成25年度～ 2020年度	＜分担＞コミュニケーションの問題を発見し、それをテーマとした観察・分析・デザイン提案を行う
5. 感性デザイン論（講義）		平成25年度～ 平成30年度	＜単独＞人間の人体・生理・認知の特性や感性的思考を把握するための各種調査分析手法と活用について
6. 卒業制作（実技）		平成25年度～	＜単独＞情報デザイン分野における学生のオリジナルテーマによる作品制作
7. 情報デザイン研究ⅢA（演習）		平成26年度～ 2020年度	＜単独＞「はかる」をテーマにプロダクトとインタフェースの提案を行う
8. 情報デザイン論（講義）		平成26年度～	＜単独＞情報のメディア史としての進化を理解し、多様な表現に触れることで情報のあり方、適した提示法について理解する
9. 芸術文化論（講義）		平成28年度～ 平成30年度	＜分担＞芸術学部の音楽と美術両学科教員のオムニバス授業。人間を中心に発想するデザインについて。
10. デジタル基礎B（演習）		平成28年度～ 2023年度	＜分担＞Adobe Illustratorの基本操作からデザイン提案パネルの制作まで
11. メディア基礎C（演習）		平成29年度～ 2023年度	＜分担＞スマートホンにおけるインタラクティブコンテンツの制作指導
12. メディアプラクティスA（演習）		2021年度～ 2024年度	＜分担＞3DCG・CADの基本操作の習得及びプロダクトデザイン提案としての表現制作を指導
13. 情報・プロダクトデザイン研究A		2021年度～ 2023年度	＜分担＞オブザベーションからの問題点把握と発想、デザインへの展開を行う
14. 情報・プロダクトデザイン研究C		2022年度～	＜分担＞「はかる」をテーマにプロダクトとインタフェースの提案を行う
15. 情報・プロダクトデザイン研究D		2022年度～	＜分担＞学生の独自テーマの企画立案指導、制作指導
16. ファッション・デジタルアプリケーション研究C		2022年度～	＜分担＞ECサイトの企画立案

事 項	年月日	概 要
17. 専門基礎A	2024年度～	＜分担＞スケッチから図面、立体デザイン検討模型まで一連のプロダクトデザインプロセスについて制作指導
18. 共通基礎B	2024年度～	＜分担＞Adobe Illustratorの基本操作からデザイン提案パネルの制作まで
19. 情報・プロダクトデザイン研究B	2024年度～	＜分担＞オブザベーションからの問題点把握と発想、デザインへの展開を行う
20. メディア研究A	2025年度～	＜分担＞UI/UXデザインにおいてオブザベーションからの問題点把握と発想、デザインへの展開を行う
2) 京都工芸繊維大学大学院 ①アドバンスデザインプロジェクト（実習）	平成18年度 平成21年度	＜分担＞企業から提示される課題に取り組む産学協同：サムスン電子（平成18年度）、日進製作所（平成21年度）
②デザインプロジェクトA（実習）	平成20年度 平成22年度	＜分担＞企業から提示される課題に取り組む産学協同：ソニー（平成20年度）、パナソニック電工（平成22年度）
③デザイン職能論（講義）	平成18年度 平成22年度	＜分担＞現代に求められるデザイナーの社会的責任・役割について
④デザイン解析工学（講義）	平成26年度～ 平成27年度	＜単独＞ユーザーの心理面を捉える調査法として主に定量的手法の解説と調査の実践を通して理解、活用する
3) 京都工芸繊維大学 ①デザイン基礎（実習）	平成16年度～ 平成22年度	＜分担＞立体造形、スケッチ、Illustrator講習など造形に関わる基礎課題
②デザインプラクティスⅠ（実習）	平成16年度～ 平成22年度	＜分担＞デザインに必要な表現技術の基本を習得（図面作成を担当）
③デザインプラクティスⅡ（実習）	平成17年度～ 平成22年度	＜分担＞デザインに必要な表現技術の基本を習得（3次元CGを担当）
④デザインプラクティスⅣ（実習）	平成15年度～ 平成18年度	＜分担＞ウッドデッキ制作 平成15, 16, 18年度：大学構内、平成17年度：京丹後市
⑤デザインプロジェクトⅠ（実習）	平成17年度～ 平成22年度	＜分担＞オブザベーションを中心とした問題発見を通じてデザインする
⑥デザインプロジェクトⅡ（実習）	平成17年度～ 平成22年度	＜分担＞人と情報をつなぐために最適な関係を構築するためのインタラクションをデザインする
⑦デザインプロジェクトⅢ（実習）	平成17年度～ 平成22年度	＜分担＞自分の生活環境から問題点を発見し、その解決策を企画、デザインする
⑧感性デザイン論（講義）	平成20年度～ 平成22年度	＜単独＞人間の認知や感性的思考を把握するための各種手法について
4) 大阪樟蔭女子大学 ①プロダクトデザイン論（講義）	平成18年度～ 平成23年度	＜単独＞具体的事例をもとに発想手法、コンセプト生成、人と物との関係性について
5) 京都女子大学 ①デザイン材料論（講義）	平成21年度～ 平成23年度	＜単独＞デザインワークに関わる主要な素材、加工道具について
6) 北海道武蔵女子短期大学 ①芸術と文化（講義）	平成26年度～	＜単独＞デザインにおける文化史を主に産業革命以降に焦点をあて講義。生活における視覚イメージ、デザインにおける社会的背景について解説。
2 作成した教科書，教材		

事 項	年月日	概 要
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 公開講座：京都府地域社会人キャリアアップ推進事業	平成15年12月	「地域社会人・商品開発とデザイン」について講義及びワークショップ
2. 講演：大阪産業創造館	平成16年1月	人間中心のものづくり「人間を中心に据えるモノづくりが売れ筋を変える」
3. 公開講座：京都府地域社会人キャリアアップ推進事業	平成16年11月	「女将さん・経営とデザイン塾」公開講座及びアンケート調査報告
4. セミナー：滋賀県工業技術総合センター	平成21年3月	「ものづくり企業が感性価値に取り組むために」感性価値創造支援セミナー、デザインワークショップの報告
5. 講演：京都工芸繊維大学創造連携センター、京都市、京都高度技術研究所	平成22年1月	「感性価値の把握とデザイン」感性デザイン研究の事例報告
6. 公開講座：札幌大谷大学	平成25年11月	「モノのデザインの変遷とこれから」
7. 台湾大学との国際ワークショップ	2019年8月	台湾雲林科技大学、台湾華梵大学、台湾台中科学技術大学、札幌市立大学との学生の文化交流活動として、「human bond」をテーマに札幌を舞台としたデザインワークショップを開催した。
5 その他		
1. TOKYO DESIGNERS WEEK	平成16年度～平成22年度	京都工芸繊維大学として出展 2004, 2007, 2009, 2010学生個人賞、2009学校賞を受賞
2. 草津あかりイベント参加	平成20年度	京都工芸繊維大学として出展 屋外照明作品の制作
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年月日	概 要
1 資格, 免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 製品ブランド「ARVORE」のデザイン	平成11年7月	革メーカーであるホクヨーはこれまでに自動車革シートの製造を中心に、鞆、靴などの西欧を行なってきた。扱う革の種類が多い中で、新規に開発した鞣し技術によって製造された革素材を新たなブランドとしてネーミングとロゴデザインを行なった。
2. 株式会社ホクヨーのグラフィックデザイン	平成12年1月	社名の他に「」を社の方針として掲げるにあたり、名刺、ステッカー作業着などのリニューアルデザインとしてトータルグラフィックデザインを行なった。
3. ISDNルータ「FITLE-net」の製品デザイン	平成12年11月	これまでの企業向け製品から、市場におけるシェア拡大を狙い、企業向け製品と新たにエンドユーザ志向を意識し、新たな製品開発を行った。ターゲットユーザーと機能の違いから2筐体をデザイン。
4. ネットワーク接続機器「MPC」の製品デザイン	平成13年1月	企業内通信を移動体通信にまで拡張することを目的に、普及が進んでいるISDNルータ上に、移動体特有の通信手段を付加した製品のデザイン。
5. 釣鐘のデザイン	平成22年3月	21～京都感性商品開発研究会__JAPAN KYOTOの響をテーマに研究開発支援を受け、卓上用の釣鐘をデザイン提案。

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 建築設計資料集成：物品	共著	平成15年4月	丸善 286頁	(担当部分概要) pp. 31～35 担当部分：「休息・就寝」 建築空間に配置・利用される物品を幅広い視点から集め、幅・高さ・奥行きなどの寸法を図示したものである。1978年に刊行された本書は建築設計において重要な参考資料となっているが、掲載内容を現代の生活行為から掲載物品を再検証し、最新の規格・標準に関する解説を加えた。 (編者) 日本建築学会 (共著者) 渥美浩章, <u>鳥宮尚道</u> , 他55名
(学術論文) 1. The System and User Interface Design of the Tsukuba Internet Museum	共著	平成9年10月	2nd Asian Design Conference, pp. 11～18	WWWでは表現の可能性が広がり、様々なグラフィック処理が可能になってきているが、その実操作の統一感を整理することが難しいように思われる。本論は既に公開しているサイト内において操作プロトコルを記録し、そこから操作に関する幾つかの特徴と問題点を発見した。 (共著者) 山中敏正, 木村浩, <u>鳥宮尚道</u>
2. New Approach of Experience Design for Organizing Educational Structure of Universities in Japan	共著	平成17年11月	International Design Congress IASDR, N00000808JPLIP00807. pdf (CD-ROM)	経験価値の視点から学生をユーザーと見立てた大学満足度調査。アンケート調査から5つの潜在因子を抽出し、共分散構造分析にて因子間の因果関係を調査した。結果、大学満足度の向上には教育を重視した施設・設備の充実が最重要課題として明らかになった。 (共著者) ◎ <u>鳥宮尚道</u> , 福田民郎, 榎勝彦, 森本一成
3. 連想樹形図を用いた思考プロセスの把握	単著	平成22年11月	日本デザイン学会デザイン学研究57巻第4号, pp. 51～56	概念構築に伴うイメージ形成について、sexyをテーマに解釈を試みた。思考の連想過程に着目し、その記録方法として連想樹形図の作成を試行し、そのデータを用いて数量化Ⅲ類、クラスター分析、DEMATEL法によって概念内容を明らかにした。
4. 瓶子形状の需要と象徴的な器形要素の検証	単著	平成23年1月	日本デザイン学会デザイン学研究57巻5号第5号, pp. 47～52	祭祀に用いられる瓶子の形の由来について調査し、その象徴性を表すのに最も適した形状をコンジョイント分析を用いて明らかにした。結果、上下のつながり部形状が最も重要視している事が分かった。
5. 印象把握のための画像を用いた複合評価システムの構築	単著	平成23年3月	日本デザイン学会デザイン学研究57巻第6号, pp. 89～94	Web上で複数画像を用いた簡易に行えるアンケートシステムを構築し、得られたデータを数量化Ⅲ類、クラスター分析、多次元尺度構成法を用いて分析することで、印象把握を試みた。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 6. デザイン支援のための概念把握手法に関する研究（博士論文）	単著	平成25年3月	博士論文（学術） 京都工芸繊維大学 博乙第188号	デザインプロセスの概念設計段階でいかに概念を把握することが重要かをとらえ、デザインプロセスに簡便に導入可能で、調査手法の短縮に貢献し、被験者に負担をかけない概念設計手法を検討した。成果としてWebを用いた定性的なアンケート手法を開発し分析結果を得る新たな手法を開発し、検証した。
7. 地域コミュニティにおける象徴的造形の生成過程についての研究—ご当地キャラクターを事例とした生成過程の調査と分析	共著	2021年4月	日本デザイン学会デザイン学研究67巻第4号, pp. 69～78	地域コミュニティにおいて有効に活用される象徴的造形の生成過程を明らかにすべく、ご当地キャラクターの事例から考察を行った。運営団体を対象としたアンケート調査の結果から、ご当地キャラクターの生成過程を類型化し、「生成目的に対する効果」と「生成過程」の関連について分析を行った。（共著者）宮原佑貴子、櫛勝彦、鳥宮尚道
(口頭発表) 1. 筑波大学インターネット美術館の方法とその検証に関する考察	共著	平成8年10月	第43回日本デザイン学会研究発表大会梗概集 p. 106	WWW上の情報の提示方法に客観的指針を得ることを目的とし、プロトコル分析によって、情報のレイアウトに起因する探索行動を問題として発見した。（共著者）◎ <u>鳥宮尚道</u> 、松田肇、駒宮祐子、羅丹、山中敏正、木村浩
2. 感性評価構造モデルのプロトタイプ検索	共著	平成9年11月	第44回日本デザイン学会研究発表大会梗概集 p. 47	感性評価構造のモデル化を行うための基礎調査としての人の感性的反応に関する考察を行なった。結果、人の認知過程は思考の順序を直列的に辿ったものではなく、多様な並列プロセスを取っていることと推測された。（共著者）原田昭、五十嵐浩也、岡崎章、張浦華、 <u>鳥宮尚道</u>
3. モデル製作における感性評価の研究	共著	平成9年11月	第44回日本デザイン学会研究発表大会梗概集 p. 49	3Dモデル検討時の内容に感性的評価がどう伝わっているかを明らかにし、感性的なイメージ情報を伝える方法とインターネット上での利用方法を構築することを目的とした基礎実験。（共著者）岡崎章、原田昭、五十嵐浩也、原田泰、張浦華、 <u>鳥宮尚道</u>
4. エフェクト画像に対する感性評価	共著	平成9年11月	第44回日本デザイン学会研究発表大会梗概集 p. 51	視覚情報はユーザーの意思決定に影響を及ぼす。これは視覚情報が意味性を持ち、感情を喚起するものと考ええる。そこで視覚情報の持つ特徴をより強めるため、エフェクトフィルタを通した画像に対するユーザー評価を行った。（共著者）張浦華、原田昭、五十嵐浩也、原田泰、岡崎章、 <u>鳥宮尚道</u>

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(口頭発表) 1. 同一対象物から得られる視覚情報と触覚情報の感性構造	共著	平成10年6月	第15回日本認知科学会研究発表大会発表論文集pp. 146～147	情報機器のマルチモーダルインタフェースの中で特に視覚情報と触覚情報の関係に着目した。結果、見たときと実際に触った時に喚起されるイメージは複数の被験者間において、イメージの統一性に大きく差が生じることが示唆された。 (共著者) ◎<u>鳥宮尚道</u>, 原田昭, 山中敏正
2. 3次元CADとリアルモデルの比較における形態イメージの差異	単著	平成14年3月	第47回日本デザイン学会研究発表大会梗概集pp. 224～225	直感的にデザインされた形状をCG化し、NC工作機で立体物を作成し、双方から得られるイメージを比較検証した。視覚情報から得られるイメージと触覚情報から得られるイメージとでは被験者のイメージが異なることが明らかになり、原因となる形状部位を示した。
3. 高齢者の自助生活のためのカレンダー・システムの提案	共著	平成29年9月	ヒューマンインタフェースシンポジウム2017	高齢者の生活観察を通じ、近い将来の生活の構造を明らかにし、この構造に基づいて、ニーズを満たすために必要な音声対話型のインタフェースを備えたプロトタイプを開発。試行の結果、日常的にスケジュールを管理し、家事をする高齢者がシステムをよく捉えていることを示した。 (共著者) 榎 勝彦, 畔柳 加奈子, 伊賀 陽祐, 栗野 正雄, 羽田 亜美, 井上 裕功, <u>鳥宮 尚道</u>
(その他) 1. 複数環境光下における光源のイメージ評価	共著	平成12年3月	筑波大学感性評価構造モデル構築特別プロジェクト研究報告集vol. 4 pp. 231～235	EL、光源の視認性について、他の光源との比較実験を行った。多くの使われ方が考えられるEL光源の特徴を感性的な視点から評価した結果、他の光源よりも視認性が高く、光源色によるイメージを明確に伝えることができることを示唆した。
2. ホームセキュリティシステム「BBee」	共同	平成20年3月	日本デザイン学会デザイン学研究特別号 vol. 15-3, No. 59 p. 37	特集/安心、安全のデザイン力 製品化されたホームセキュリティシステムのデザインニーズ、形状を決めたデザインコンセプトについて紹介した。 (共著者) 三橋幸次, <u>鳥宮尚道</u>
3. 問題発見のための観察手法と解決方針～プリンタを事例に	単著	平成25年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第43号, pp. 45～52	製品対象の開封からセットアップまでの様子を観察し、発生した複数問題を「情報からの対処」「経験からの対処」「情報誤認・物理障害」「情報不足による困惑」と整理し、それぞれの問題の解決方針を策定した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（その他） 4．観察調査とDEMATEL法によるピーラーデザインの要素研究	単著	平成26年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第44号, pp. 57～61	使用状況の観察から評価グリッド法によるユーザーの価値観を抽出し、ピーラーデザインに求められるデザイン要素を明らかにした。
5．絵画指導における学生の理解度に関する一考察	共著	平成29年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第47号, pp. 71～78	美術教育の場での教員と学生のコミュニケーションギャップについて、教員の指導内容を記録し、指導を受けた学生の理解度について調査した。結果、指導を受けた本人はその内容についてよく理解できたと考えられる結果となったが、指導を傍聴した他学生にとっては理解が難しいと感じられた内容も確認された。 （共著者）◎鳥宮尚道、川口浩、松村繁、佐々木剛、山川真一
6．作品制作と鑑賞者の視線情報に関する基礎的調査～絵画学生を対象として～	共著	平成30年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第48号, pp. 37～43	絵画作品について制作者が見てほしい箇所と作品鑑賞者の鑑賞時の視線位置を調査した。結果、両者は必ずしも一致せず、制作者は鑑賞者の視線を意図通りに誘導できていないことが明らかとなった。また制作者自身は鑑賞者の視線情報を制作途中で確認し積極的に活用したいという意向があることがわかった。（共著者）◎鳥宮尚道、川口浩、松村繁、佐々木剛
7．「台日国際デザインワークショップ」を通じたグローバル人材の育成	共著	2025年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第55号	主にアーバンベアについて事前のリサーチから、テーマを「人間×野生動物との共生」とし、札幌の自然環境を活かしたプログラムが展開された。参加学生は、異なる文化背景を持つ他国の学生と協働しながら、都市化と野生動物の衝突という課題をデザインの視点で解決するための提案を行った。（共著者）戸澤逸美、鳥宮尚道
（作品） 1．Breeze Wave	単著	平成8年2月	かわさき産業デザインコンペ報告カタログ	「クリスタルライトを利用した照明器具」というテーマのもと、光源部分の両端にアームを設け、そのアームに2つの可動部を設置し、有機的な動きを実現した。これをサイズの異なる6機を連動させることで、空間内の空気の流れを表現することができる。自然界の要素を室内に取り込むことを目的としたデザイン。 ＜神奈川サイエンスパーク特別賞＞

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(作品) 2. SELENE PROJECT	共同	平成10年11月	NASDA月面利用計画 国際シンポジウム（京都） http://moon.nasda.go.jp/ja/selene/	担当部分：CGモデリング/アニメーション設定、編集 月面探査機着陸時のコンピュータシミュレーションムービーの制作。 NASDAからの依頼により、月、太陽、地球の位置関係を把握し、衛星、着陸機への光の当たり方、それぞれの向き、パネルの展開順序など、現在計画されている動き方をNASDAの技術資料に基づき制作。 （共同研究者）原田昭, <u>鳥宮尚道</u> , 田川彰人
3. 防犯装置「BBee」の製品デザイン	共同	平成13年10月	日本デザイン学会作品集, vol. 8, pp. 26～29	ホームセキュリティシステムのデザイン。製品デザインではインテリアやファッションの感覚に融合し、かつ信頼性と親しみやすさを表現することを追求した。さらに、製品デザインとの一貫性を考慮し、広告展開、パッケージデザインまでのトータルなデザインを展開した。 （共同研究者）三橋幸次, <u>鳥宮尚道</u>
4. imagination	共同	平成17年3月	リアライズ・モバイル・コミュニケーション株式会社, コンテスト報告カタログ	記入内容をデジタルデータとして通信できる専用のデジタルペンとノートの利用法とニーズを研究し、グループワークにおける発想支援につながるデザイン案を考案した。 ＜「デジタルペンを利用した先端アプリケーションコンテスト」特別賞＞ （共同研究者）◎ <u>鳥宮尚道</u> , 竹内啓行, 阿部壮一郎、奥田将斗
5. 丹後あじわいの郷 ウッドデッキ、ウッドサークル、ウッドオブジェのデザイン	共同	平成18年3月	日本デザイン学会作品集, vol. 11, pp. 38～41	大学・京丹後市・丹後あじわいの郷の産学官連携による、郷のシンボル。集客につながるウッドデッキなど計5点の制作を行った。日本デザイン学会による審査を受け、作品集採用作品となった。 （共同研究者）◎ <u>鳥宮尚道</u> , 山本建太郎
6. Rotate Interface	単著	平成19年6月	BUTSUGAKU Research Institute	特殊と普遍をテーマとした国際コンペにおいて、カメラ操作者の撮影姿勢を基準とした新たなインタフェースの提案を行った ＜DT Design Awards国際コンペティション2006 カメラ部門優秀賞＞
7. 成形合板の椅子	単著	平成28年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第46号, pp. 113～116	特殊な設備を必要としないハンドメイドによる成形合板技術の検証からスツールの制作を行った。
8. クリの椅子	単著	2019年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第49号, pp. 161～164	道内産クリ材を用いたリビングチェアの制作

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(作品) 9. エゾシカニカワ	共著	2019年5月	大丸藤井セントラル	エゾ鹿のカワカワ抽出した膠の商品化に向けたブランディング。ロゴデザイン、パッケージデザイン、ホームページのデザインを行い店頭販売を実施。 http://www.ezoshikanikawa.com/
10. 木製ペントレイ	単著	2022年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第52号, pp. 137～139	異樹種の組み合わせによるCNCを活用したペントレイの制作
11. excitement beyond coexistence	単著	2022年6月	ANBD 2022 SPECIAL EXHIBITION	ポスター作品(A1)の制作。Phuket Culture Center Phuket, Thailand
12. 木製スツール	単著	2023年2月	札幌市資料館ミニギャラリー5/6	異樹種の組み合わせによるスツールの制作 eleven senses札幌大谷大学芸術学部美術学科メディア表現領域教員によるグループ展
13. uniformics (ユニフォーミクス)	共同	2023年2月～2024年4月	株式会社北海道日本ハムファイターズ	株式会社北海道日本ハムファイターズのユニフォーミクスの企画に協力し、情報・プロダクト専攻の学生を中心に、「石川スノーフォックススポーツ少年団(函館)」「旭川スターチス」のユニフォームデザインを行った。ディレクション担当。
14. Wall Flower Vase	単著	2024年10月	札幌大谷大学美術学科教員展	壁設置のできる演出照明付きフラワーベースの制作
(報告書) 1. カーサウンドの新規デザイン提案	共著	平成13年3月	東北芸術工科大学地域創造センター報告書	東北パイオニアとの産学連携においてCARROZZERIAブランドのカースピーカー用デザインの提案 (共同研究者) 玉田俊郎, <u>鳥宮尚道</u>
2. 京丹後市観光サイン計画プロジェクト	共著	平成16年10月	京都工芸繊維大学共同研究報告書	市町村合併による京丹後市の誕生に伴い、市内における観光サインのリニューアルを計画し、複数年度によるサインの設置を行った。 (共同研究者) 福田民郎, <u>鳥宮尚道</u>
3. 京都府農業公園丹後あじわいの郷イルミネーションデザイン	単著	平成17年4月	京都工芸繊維大学共同研究報告書	あじわいの郷のメインエリアに集客を狙いとしたイルミネーションデザインを計画。イルミネーションのカスタマイズ可能な機器を提案。
4. 夕日ヶ浦温泉地域活性化実験プロジェクト	共著	平成18年5月	京都工芸繊維大学共同研究報告書	地域のシーズ発掘のためのサーベイと旅館宿泊者アンケートを中心に地域活性化の基本方策を立案 (共同研究者) 福田民郎, 山本建太郎, 西村雅信, <u>鳥宮尚道</u> , 角田暁治, 佐々厚司, 笠原一人
5. 夕日ヶ浦温泉地域将来計画	単著	平成20年4月	京都工芸繊維大学共同研究報告書	地域住民及び観光業者からの聞き取りを中心に行い、府市へ提言する地域将来計画を策定。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(展覧会) 1. 東北芸術工科大学助手・副手展	共著	平成13年7月	東北芸術工科大学7階ギャラリー	PC入力デバイス「MIGONASHI」の制作
2. DT Design Award 2006入選作品展	単著	平成19年6月	GALLERY le bain	国際コンペ「特殊と普遍」DT Design Award2006の入選作品展
3. くさつ街あかりプロジェクト	共著	平成20年11月	草津市駅前	草津市駅前にて行われる、くさつ「街あかり」に参加し、小汐井神社境内にて京都・大阪のデザイン系大学とともに作品展示を行った。
4. ANBD 2022 PHUKET SPECIAL EXHIBITION	単著	2022年6月	Phuket Culture Center Phuket, Thailand	Asia Network Beyond Design主催のプーケット特別展にポスター作品を出品、展示。
5. eleven senses 11人の感覚と表現	共著	2023年2月	札幌市資料館ミニギャラリー5/6	札幌大谷大学芸術学部美術学科メディア表現領域教員によるグループ展
(その他) 1. 京丹後市赤坂工業団地壁画	共同	平成20年8月	京都府京丹後市赤坂工業団地	赤坂工業団地の複数企業からの依頼により、全長役240mの外壁に壁画制作。丹後の特産物、四季を表現した。
2. 旅の駅かに一番グラフィックデザイン業務	単著	平成22年2月	旅の駅かに一番久美浜店	北畿リゾート株式会社の依頼により、当社が運営する店舗「旅の駅かに一番 久美浜店」外観グラフィックデザインの制作を行った。
3. 幼児用オリジナル食器デザイン開発	共著	平成28年9月	朝日化工株式会社製品カタログ	朝日化工株式会社との連携事業による幼児用食器のグラフィックデザイン業務